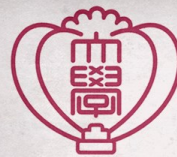


KPU NEWS



薬学の未来をつくる
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 193 Apr. 2018



新入生の皆さんへ

学長 後藤 直正

今冬は寒さも厳しく、山科の地にも何度か雪が降り、そして積もった日もありました。近隣の北陸では記録に残る豪雪禍に見舞われました。しかし、豪雪禍のなかで、配送中の食料を雪に閉ざされた人々に配るなどの心温まる報道もありました。一市井人として忘れてはならない行動であったと思います。

厳しい冬が終わり、春の陽光とともに、新入生の皆さんを迎えることができましたことは大きな喜びであります。この日まで努力と忍耐を積み重ねられたこと、それを支えられた関係の方々に敬意を表します。入学生の皆さんには、今日まで支えてこられました保護者ならびに関係者の方々への感謝の念を

忘れないことをお願い致します。さて、新たな気持ちで入学された喜びを、皆さんの先輩が短歌にしています。“親知らずぬいてかわいい空洞へ ようこそひかり世界はまぶしい（佐伯裕子選 胸キュン大賞、NHK短歌 2017年6月号）” 選者評に「---小さな空洞によって肉体を意識し、さらに船出する「世界」を眩しんでいる」と。皆さんも本学という未知の世界に心躍らせておられるのではないのでしょうか。

6年間で皆さんが成長する秘訣は、現状に留まることなく、目標を持つことにあります。目標をどこに設定するかは皆さん個人のことですが、ひとつアド

CONTENTS

■ 特集

- 本学の「産学官連携」支援体制と
それを支える「研究力」について 4

■ ご挨拶

- 新入生の皆さんへ 学長 後藤 直正 1
定年退職 2

■ コラム

- 水中でぶつぶつ 14
京薬コレクション 15
卒業生からのメッセージ 16
私の薦める、私の一冊 20
学生相談室だより 21

■ イベント

- 2017年度京都薬科大学・京都橘大学看護学部
合同多職種連携（IPE）研修報告 8
自治会執行部主催 クリスマス企画 15

■ 報告

- 京薬生の夢を応援！2017年度「学生チャレンジ事業」 3
2018年度入学試験結果と総括 17
2018年度大学院冬季募集・二次募集の入学選考結果 17
受賞・掲載 18
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 24

■ お知らせ

- 2017年度卒業式・学位記授与式 8
単位互換制度 9
2018年度オープンキャンパス開催のお知らせ 9
奨学金について 10
京都薬科大学の生涯研修認定薬剤師制度が始まります 12
2018年度前期学費等の納入について 14
Library News 16
クラブだより 22
人事 23
京薬会だより 23

バイスできることは、目標は精いっぱい手を伸ばして指先が届くところ、つまり努力によって達成できるところに設定すべきということです。それが達成できればさらに手を伸ばせばいいのです。大きすぎる目標では目標に押しつぶされます。私たちは皆さんが6年後に薬剤師国家試験に合格することを目標にされるのではなく、その合格は通過点であり、もう少し高いレベルの能力を6年間で身に付けて頂きたく思っておりますし、そのためにサポートして参ります。目標に向かってともに歩みましょう。

学ぶに徹するとは言え、ときには息を抜くことも必要です。バネも永久には伸びませんし、限界に達すれば脆いものです。余裕のある状態で学ぶことです。本学で学ぶ先輩、卒業生が作られた伝統的特徴のひとつは、学ぶときと遊ぶときの切り替えがうまくことです。6年間で、是非とも体得していただきたく思います。そのためには、学問に励むことも必要

ですが、クラブ活動も含めた課外活動を自己に課し、うまく切り替えてゆく練習をしてください。それを身につけることができたならば、将来、大きな力を持った、信頼される社会人になれます。この伝統的特技の体得に必要なことをもう一つ挙げましょう。良き友と知り合うことです。安きにつくような友ではなく、将来を大きく見る目とともに育める友人です。6年間、バラ色の日々だけではないかもしれません。躓くこともあるかもしれません。そのときに、良き友は大きな支えとなってくれるはずです。職員も同じです。俵万智さんの歌に、“「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ（サラダ記念日）”とあります。まさにこれです。

最後に、新入生の皆さん全員が6年間で大きく成長されることを祈っております。

定年退職のご挨拶



事務局 庶務課
課長 山下 豊彦

私は、2004年1月1日付で前職の大阪ガス株式会社から本学に出向し、翌年1月1日付で本学に転籍いたしました。以来、14年3ヶ月の間に教務課、入試課、庶務課を経験させていただきました。自ら本学を志望し、第2の職業人生をスタートしたものの、前職と業種及び職場風土・文化等が大きく異なる世界に飛び込んだことで、当初は戸惑いもございましたが、今日まで大過なく職責を果たすことができました。

は、良き上司・同僚・課員の皆さんに恵まれたおかげと存じます。うれしかったこと、苦勞したことなどさまざまな場面が思い出されますが、その全てが私にとって貴重な財産になっております。職員の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

私は、仕事をして規則正しい生活を送ることが、一番の健康法だと考えておりますので、今後はこれまでの知識や経験が活かせる仕事を見つけて、第3の職業人生を歩みたいと思っています。

最後に、学生・職員の皆様のご健勝とご多幸及び本学の今後ますますの発展をご祈念申し上げ、定年退職のご挨拶とさせていただきます。



みなさんは「学生チャレンジ事業」をご存知でしょうか？

学生チャレンジ事業とは、学生の薬学分野に限らない、様々な領域における自主的なチャレンジを応援することを目的として2017年度から開始された事業で、学長裁量経費から活動に対しての補助金を支給します。

今年度は審査の結果、「ディスクゴルフで世界へ！（参加グループ名：ティーバード）」「夏の実験会（参加グループ名：Friwilly）」の2つのチャレンジが採択されました。

今回、採択された両事業の代表者の感想をご紹介します。

■ ディスクゴルフで世界へ！

ティーバード代表：北村 卓巳（5年次生）



ディスクゴルフの様子

私たちは「ディスクゴルフ」を通して様々な人との交流・広報活動した上で、毎年7月に行われる世界選手権への出場権獲得することを目的とした事業を行いました。支給された補助金は、大学名が入ったユニフォームの作成や大会への交通費などに使用し、例年より多くの大会に出場することが出来ました。多くの大会に参加し、大学名を広報できたほか、様々な人との交流を通して、単科大学という閉じた空間だけでは感じる事の出来ない刺激を受けることが出来ました。

ディスクゴルフは自然を満喫しながら行える魅力的な生涯スポーツです。今回「ディスクゴルフ」ということがKPU NEWSに掲載され、皆さんに紹介できることを我々一同とても喜ばしく感じています。

そして、今回のような学生主体の取り組みに理解を示し、支援していただける京都薬科大学で薬学について学べることを誇りに思います。皆さんも是非活用してみてはいかがでしょうか。

■ 2018年度学生チャレンジ事業について

2018年度の学生チャレンジ事業については5月から募集を開始する予定です。なお、詳細は学内掲示板、Web掲示板等でお知らせします。

チャレンジする内容は問いません（事業の「独自性」「実現性」「熱意・積極性」「社会的貢献度」などを学長が総合的に評価します）。

皆さんもぜひ学生チャレンジ事業で、自分の夢をかなえてみませんか？

■ 夏の実験会

Friwilly代表：田中 友理枝（4年次生）



ダイラタンシー実験の様子

私たちは8月21日、22日に今年で第3回目となる「真夏の科学者になろう」というテーマの科学実験会を大学内で開催し、山科近隣の小学生を招待しました。学生チャレンジ事業に参加することで、空気砲やダイラタンシー*流体の上を走るといった、家庭では中々出来ない大掛かりな実験ができ、子どもたちも実際に体感し、楽しんで実験に取り組んでいたと思います。実験会後のアンケートでは「ぜひ来年も参加したい」というお声を多数頂き、私たちも大変嬉しく思っております。

学生チャレンジ事業に参加することで、事業を実行・成功させるための計画力や、色々な方々と話し合うコミュニケーション能力が身についたのではないかと感じています。

やりたいことがあるなら、ぜひ学生チャレンジ事業に参加して学生生活を充実させてほしいと思います。

*ダイラタンシー：ある種の混合物が示す速いせん断刺激に対しては固体のような抵抗力を発揮する性質のこと

本学の「産学官連携」支援体制と それを支える「研究力」について

本誌No.179号（2014年10月号）特集記事で、本学の産学官連携を推進する「知的財産・産学官連携センター（2014年4月1日設置）」について、ご紹介しました。本センターが設置され、丸4年が経過しました。現在、地域の活性化や大学改革の視点から、多様な産学官（公）連携は、非常に重要なキーワードとなっており、各大学においては大学の特性を生かした連携が行われているところです。

今回の特集では、本学の産学官連携についての基本方針と現状、これまでの成果と今後の展望および産学官連携を支える「研究力」について報告いたします。

KPU_{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

研究・産学連携推進室 室長 武野 薫

I. 産学官連携取組の経緯と本学のポリシー

我が国の産学官連携の系譜は、平成7年に「科学技術基本法」が策定されたことに端を発します*1。

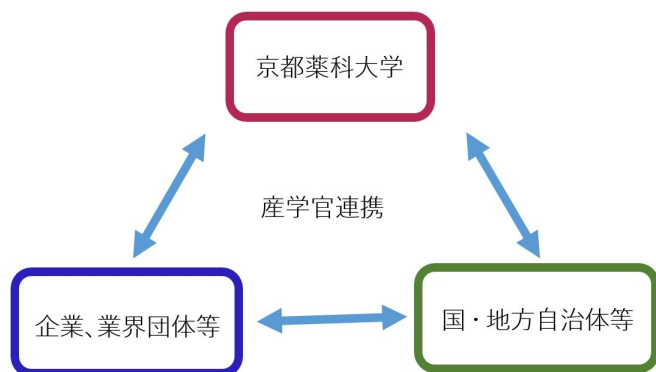
平成14年には「知的財産基本法」で大学等の責務として、「大学等は、その活動が社会全体における知的財産の創造に資するものであることにかんがみ、人材の育成並びに研究及びその成果の普及に自主的かつ積極的に努めるものとする」と定められ*2、さらに平成18年には「教育基本法」で、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と定められました*3。

これらのことから、本来的な使命である教育と研究に加えて、「第三の使命」として社会貢献が大学に求められ、これを実行するために産学官連携の必要性が認識されています。

ことにより、本学の教育及び研究活動において得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会の発展並びに人類の健康と福祉に貢献する」ことを基本方針としています。

さらに本学では産学連携に関して、特許出願件数の目標、共同研究の受入れ方針、人材育成計画等を定め、それに従って活動しています。例えば、共同研究については「本学の教育研究活動の進展に資するとともに、社会の課題解決に貢献することを目的として、共同研究を行う。学外との共同研究は教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育研究に支障を生じるおそれがないと認められる場合に限り、受け入れる」としており、大学の本来的な使命である教育と研究との関係に配慮することを示しています。

本学の産学官連携に関するポリシー、規則、契約書雛形等はホームページで公表しています (https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/sangaku/)。



このような状況下、本学は平成26年7月24日に、本学の研究成果の蓄積を広く社会に還元し社会貢献を実現するために、産学官連携ポリシーを制定しました。当該ポリシーでは、「産学官連携を積極的に推進する

II. 産学官連携の強化とリスクマネジメント

政府の「日本再興戦略2016」（平成26年6月2日）*4において、「組織」対「組織」の本格的な産学官連携の推進が打ち出されたことを踏まえ、産学官連携を深化させるための方策や、その方策の実行・実現に必要な具体的な行動等について、産学官の対話を通じて、産学官それぞれに求められる役割や対応を検討することを目的として、産業界、大学、文部科学省、経済産業省および内閣府のメンバーから構成されるイノベーション促進産学官対話会議が設置されました*5。

当該会議の中に、産学官連携深化ワーキンググループが設置され、その成果として、平成28年11月30日に「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」が公表されました*6。

本ガイドラインは、産業界から見た、大学が産学官連携機能を強化するうえでの課題と、それに対する処方箋を示すことにより、大学が自らの選択により産学官連携を推進するにあたって、とりうる方向性を示しており、産学官連携の在り方を強制するものではないが、各大学がその多様性を前提に自発的に取組むことを促すことを目的としています。そのなかでは、強化すべき課題として、様々なリスクの適切なマネジメントも挙げられています。たとえば、利益相反マネジメントは産学官連携活動の適正な推進を実現するために、各大学がポリシーや規則を制定して効率的・実効的なマネジメントを実行することが課題であるとされています。

本学でも、平成22年4月1日に利益相反ポリシーを制定・実行していましたが、利益相反マネジメント規則の制定に呼応して、平成27年4月1日にポリシーの改訂を行いました。利益相反ポリシーも、前述のホームページで公表しています。

Ⅲ. 本学の産学官連携の実績

文部科学省が公表している「平成27年度 大学等における産学官連携等実施状況について」*7において、本学の産学官連携実績は、共同研究は受入件数12件、受入額15,412千円であり、受託研究は受入件数16件、受入額23,679千円でした。本資料に基づき算出したところ、本学の実績は、薬学部を有する私立56大学（総合大学も含む）の中で、共同研究および受託研究の受入総件数は18位、受入総額は25位、また、研究者1人当たりの受入件数は6位、受入額は14位という位置づけになります。

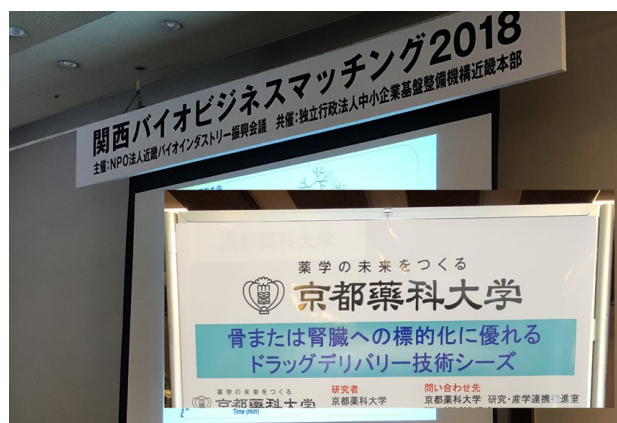
ご参考までに、薬学部を有する私立56大学のうち、単科の薬科大学である12大学の共同研究および受託研究の受入件数と受入額を、次の表に示します。

私立薬科大学の共同研究・受託研究受入件数と受入額（平成27年度）

薬科大学	受入件数	受入額（千円）
京都薬科大学	28	39,091
A	41	124,144
B	35	46,895
C	28	176,097
D	25	140,927
E	17	15,668
F	10	12,634
G	6	46,100
H	6	5,200
I	5	11,160
J	5	3,072
K	0	0

特許関係については、本学が職員等の発明を機関帰属とする発明取扱規則を施行したのが平成26年8月であるので、現状は特許出願が徐々に増えてきたところです。共同研究先の企業や大学との共同研究の成果や、本学単独の研究成果である発明について、特許出願しています。特許出願については、実績を件数で捉えるのではなく、個々の特許出願が社会の課題解決に実質的に資することを目的として、取組みたいと考えています。本学単独の特許出願に係る発明について、産学官連携を目的とした展示会に出展したところ、製薬企業はもちろんのこと、様々な業種の企業が本学のブースに足を運んでくださり、関心の高さを確認することができました。今後、これらを活用した産学官連携の成果に期待いただけるものと考えます。

展示会展出の例



また、文部科学省が高等教育全体の質の向上、特色化のために、改革に全学的・組織的に取組む私立大学等を重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」*8においては、本学はタイプ3「産業界・他大学との連携」に2年連続で選定されております（選定大学数／申請大学数：平成28年度75校／207校、平成29年度72校／208校）。これは、タイプ毎に文部科学省が提示した設問に対応できているかが評価されるものであり、産学連携については、本学が産学連携のための部署を設置して専任職員を配置していること、企業との共同研究や企業からの受託研究を実施して一定金額以上の費用を受け入れたこと等が評価され、選定されました。これも、本学の産学官連携活動の成果の一つであると考えます。

なお、産学官連携について産業界からは、大学との共同研究において契約業務が硬直的であるとの指摘が見受けられます。本学でも前述のように契約書雛形をホームページで公表していますが、本学の実務では、法令や規則を遵守するのは当然のこととして、双方に有益であるように交渉し、案件ごとに最適な契約を締結することを旨としております。

IV. 産学官連携を支える「研究力」

大学の研究力をはかるには、科学研究費助成事業の採択結果を指標の一つとすることができます。科学研究費助成事業は科研費とも呼ばれ、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究（研究者の自由な発想に基づく研究）」を対象とする「競争的資金」であり、専門分野の近い複数の研究者による審査である「ピアレビュー」という方式によって、独立行政法人日本学術振興会を中心とした審査を経て、応募案件の採否、配分額が決定されています。配分額の多寡は大学の規模に負うところが大きいため、本学のような小規模大学の場合、採択率により他大学との比較における位置づけを知ることができます。

新規応募件数が50件以上の研究機関を対象として、応募件数に対する採択件数の割合を示す「科研費新規課題採択率」において、平成28年度は全国平均が26.4%であったのに対し、本学は39.9%であり、これは、国公私立の全大学の中で第11位、薬学部を有する大学では第1位、私立大学では第5位という結果でした^{*)}。本学の研究力の高さの一端を示す実績であるといえます。

研究者が所属する大学別 採択率（平成28年度 新規採択分）

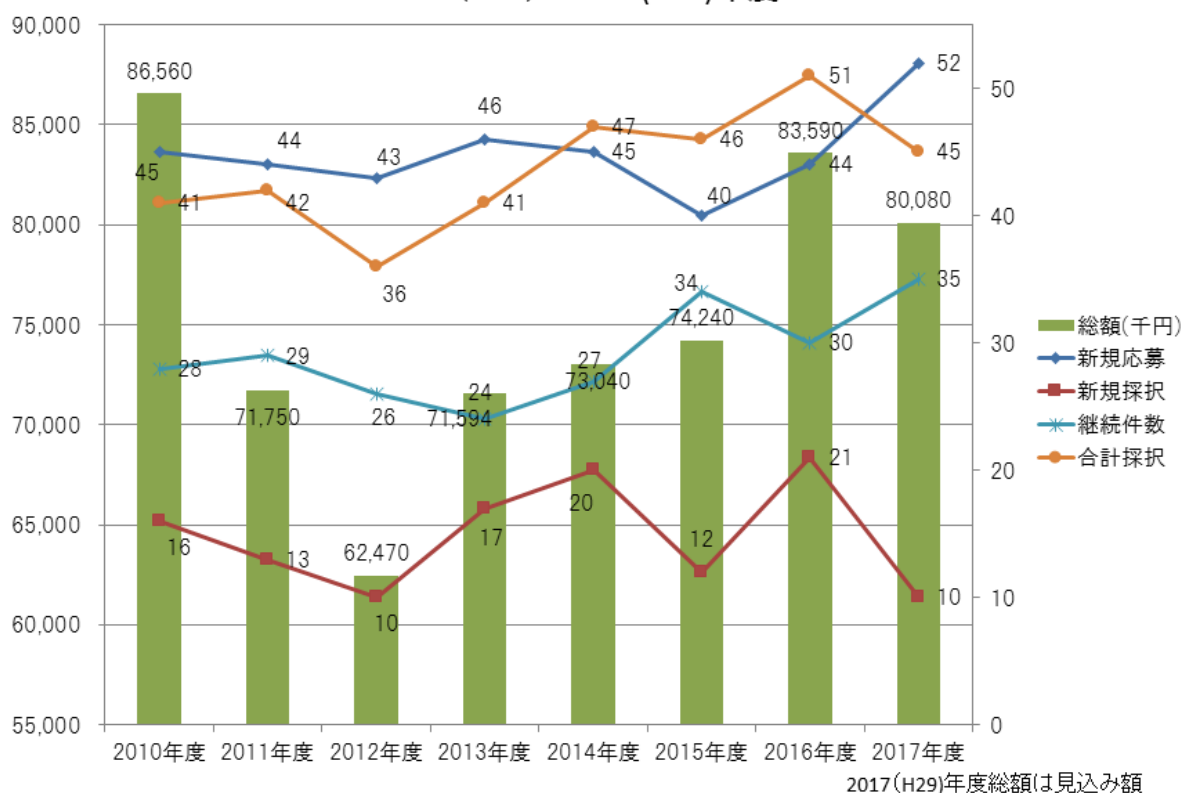
	大学名	採択率 (%)	採択件数
1	一橋大学	51.6	63
2	東京外国語大学	50.6	45
3	高知県立大学	42.4	25
4	東京学芸大学	41.6	47
4	学習院大学	41.6	37
6	奈良教育大学	41.2	21
7	福井県立大学	40.7	22
8	日本福祉大学	40.4	23
9	専修大学	40.3	25
10	九州歯科大学	39.4	28
11	京都薬科大学	38.9	21
11	関西学院大学	38.9	91
13	同志社大学	37.6	140
14	慶応義塾大学	37.5	395
14	立教大学	37.5	54

また、本学は、私立大学が各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトに対して重点的かつ総合的に補助を行い、わが国の科学技術の進展に寄与することを目的とした文部科学省の「私立大学戦略的基盤形成支援事業」に、平成20年度に2件、平成24年度に1件、平成25年度に1件、平成27年度に2件採択されました。これも本学の研究力が高く評価されていることを示すものであります。

本学は学内公募の研究助成制度として、萌芽的・挑戦的な研究を対象とする「科学振興基金研究奨励金」、これまでの研究業績に基づき、今後大きな成果が見込める研究を対象とする「科学振興基金研究助成金」、本学の特色を活かした学術共同研究であり、十分な研究成果および更なる発展が期待できるものを対象とする「共同研究推進事業」の三種を設けています。いずれも、研究の特色や計画の妥当性はもちろんのこと、当該研究による本学の教育に対する貢献も申請要件としており、これらの学内助成により研究が大いに発展し、公的研究費や外部機関からの資金受入により、将来の社会貢献に結びつくことを期待して設けた制度です。

以上のことから、本学が薬学教育のみならず薬学研究も牽引する大学であり、その研究力が本学の産学官連携活動を支えることをご理解いただけたらと思います。

科学研究費助成事業 申請件数・交付額等 2010(H22)～2017(H29)年度



V. 今後の産学官連携活動と研究力のさらなる強化に向けて

本学は今後も、本学の教育研究上有意義であると認められれば、大学の第三の使命「社会貢献」を果たすため、関連の様々な法令や規則を遵守して、産学官連携に取り組んでまいります。

本学の研究力や産学官連携の状況をステークホルダーの皆様にご紹介するために、Webページや展示会等、種々の媒体を通じた広報活動も進めてまいります。皆様のご支援やご協力をお願いいたします。

共同研究・受託研究や研究助成寄附についてのお問い合わせは、研究・産学連携推進室（メールアドレス：sangaku@mb.kyoto-phu.ac.jp）までご連絡ください。

引用文献

- *1：経済産業省「産学官連携の系譜」http://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/sangakukeifu.html
- *2：http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=414AC0000000122
- *3：http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=418AC0000000120#32
- *4：https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf
- *5：http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/taiwa/index.htm
- *6：<http://www.meti.go.jp/press/2016/11/20161130001/20161130001-2.pdf>
- *7：http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1380184.htm
- *8：http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm
- *9：http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1377914.htm

臨床薬学教育研究センター 講師 今西 孝至

2016年度に引き続いて、2017年12月22日に本学にて京都橘大学看護学部と合同で多職種連携教育（Interprofessional Education; IPE）研修を行いました。IPEの目的は「①医療チームの一員として自分の専門職の役割を理解する」、「②他の専門職の視点、考え方、役割を学ぶ」ことであり、異なった医療教育を受けている薬学生・看護学生が共に話し合いを通じて多職種連携の考え方などを知り、各職種にはどのような強みがあってチーム医療に貢献できるのかを理解することが大きな目的です。

本年度の研修会に参加した学生は34名（京都薬科大学：5年次生17名、京都橘大学看護学部：4年次生17名）でした。研修は昨年と同様に「心原性脳梗塞により片麻痺になった患者の在宅医療に対する薬剤師と看護師とのチーム連携」についてシナリオを使ってグループワークを行いました。実際に研修会を行ってみると、やはり昨年と同様に参加した学生達はこれまで異なった医療教育を受けてきているため、それぞれの立場からの意見の違いが明確になり、それぞれの意見をうまく統合させた結論を導き出すのに苦労している様子でした。ただ、グループワークの様子を見ている限り、非常に充実したすばらしいSGDをしていると感じ、学生から勉強させられる場面もありました。本研修終了後の学生達の意見を聞くと、両学部生ともに「臨床現場に出る前にお互いの職種の考え方を知ることができて大変有意義だった」という意見を多く聞きました。また、「後輩のためにも今後もこのような研修会は続けて行って欲しい」という要望も多くありました。

先日（2018年2月3日、4日）、国立京都国際会館で開催された近畿薬剤師合同学術大会2018に参加しました。そこでのテーマセッションの一つに「地域に生きる薬剤師 薬局ビジョンに対応する保険薬局のあり方」がありました。その内容は、“「地域包括ケアシ

ステム」の中でどのような保険薬局が求められているのか」という問いかけのようなセッションでした。そこで、医師・看護師・ケアマネジャーに対するアンケート調査の結果報告があり、“薬剤師の在宅業務で不足しているものは何か？”という質問に対して「地域包括ケア会議への参加」や「多職種連携」という結果が報告されていました。今、まさに医師をはじめ、看護師やケアマネジャーが現場の薬剤師に求めていることはこのことです。

これからの医療は“病院完結型医療”から“地域連携型医療”に必ずシフトします。これに対応するためには、疾病に対する薬物治療のみでは不十分であり、疾病の予防や発症後の介護・福祉も含めた医療サービスを提供する必要があります。自らの専門的能力だけでなく、他職種の役割を理解した上で、多様な専門職と協働し、患者や利用者のニーズに応じていく実践的な能力を身に付け、医療現場で働き始めたときから円滑なチーム医療を実践できるように学生時代からしっかり多職種連携について理解しておくことが非常に大切なことであると思います。



活発な議論を交わす参加者達

News 2017年度卒業式・学位記授与式

庶務課

2017年度卒業式・学位記授与式を、3月17日（土）午前10時から創立130周年記念館で執り行いました。

学部薬学科335名に卒業証書・学位記及び大学院博士課程7名、博士後期課程2名、博士前期課程1名並びに課程によらない博士1名に学位記が後藤学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、同創立130周年記念館で、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定される制度です。昨年度は49大学から435科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます。

（2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます。）

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学生便覧並びにシラバスを参照して下さい。

■ 単位互換制度の魅力

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などはほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
- ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
- ③講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
- ④受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
- ⑤全ての科目を無料で受講できます（ただし、科目によっては、テキスト代等が必要）。

■ 受講申し込み

受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月11日（水）正午までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要・シラバス等については大学コンソーシアム京都のWebサイトを参照して下さい。

<https://el.consortium.or.jp/login.php>

なお、上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も確認することができます。

2018年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内下さいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。入試課にお問い合わせ下さい。

また、6月のオープンキャンパスから、新たに学生企画のプログラムが加わる予定です。

■ 2018年6月のオープンキャンパス

〈日時〉2018年6月3日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■ 2018年10月のオープンキャンパス

〈日時〉2018年10月28日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■ 2018年8月のオープンキャンパス

〈日時〉2018年8月4日（土）・8月5日（日）

午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：30～16：30

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・在学生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

お問い合わせ

入試課

T E L : 075-595-4678

F A X : 075-583-2232

E-mail : kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。

募集については、随時、奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■ 日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（留年中は停止）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 (無利子貸与)	自宅月額	20,000円、30,000円、 <u>40,000円</u> 、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	20,000円、30,000円、 <u>40,000円</u> 、 <u>50,000円</u> 、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 (有利子貸与)	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

注) 1. 下線付きの月額は、2018年度入学者から新たに選択できる月額です。2017年度以前の入学者は、下線付きの月額を選択できません。

2. 自宅外通学の学生は、「自宅月額」の中からも月額を選択することができます。

【奨学金の申込基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安					
			給与所得世帯			給与所得以外の世帯		
第一種奨学金 (無利子貸与)	4月	高校 評定平均値 3.5以上	通学形態	上限額	最高月額選択 時の上限額	通学形態	上限額	最高月額選択 時の上限額
			自宅	800万円	747万円	自宅	392万円	349万円
			自宅外	847万円	804万円	自宅外	439万円	396万円
第二種奨学金 (有利子貸与)	4月	特に定めなし	通学形態	上限額		通学形態	上限額	
			自宅	1,143万円		自宅	735万円	
			自宅外	1,190万円		自宅外	782万円	

注) 1. 上表においては、本人、父、母（無職、無収入）、公立高校生の弟妹1人の4人世帯の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。

2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。

3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。

4. 奨学金の種類や貸与月額については、希望どおりとならない場合があります。

5. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■ 京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返還の必要がない奨学金です。給付型奨学金（研究・課外活動優秀者、遠隔地出身学生）、貸与型奨学金の募集の詳細については、掲示板でお知らせします。

名称		金額	採用予定者数 (2018年度)	対象等	募集時期
京都薬科大学 給付型奨学金	入試成績優秀者	半期授業料の1/2	約10名	新入生対象、入試成績優秀者を大学が選考。	大学選考
	成績優秀者	5～20万円	各学年 約15名	2年次生～6年次生：前年次成績優秀者を大学が選考。	大学選考
	研究・課外活動 優秀者		約10名	研究・課外活動において、顕著な実績又は成果を挙げた者。公募制。	2～3月
	遠隔地出身学生	60万円(月額5万円)	各学年 約10名	1年次生～4年次生：近畿2府4県以外に自宅があり、下宿生活をしている成績優秀者。公募制。 2015年度入学者より適用	4月
京都薬科大学 授業料減免型奨学金		半期授業料の減免	約30名	家計における経済的な事情により授業料の支払いが困難となった者。 在学中6回まで。	随時
京都薬科大学 貸与型奨学金		年額授業料の1/2以内	約10名	無利子貸与。 授業料の支払いが困難な者。 貸与回数は原則、在学中に1回のみ。	9月

■ その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集がきているものについては、奨学金掲示板（愛学館1階）に掲載しております。その他奨学金の募集に関して、申請を希望される方は学生課までご相談下さい。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】（2017年度実績）

奨学団体名	種別	月額	出願資格
河内奨学金	給付	40,000円	薬学部 1年次生
佐藤奨学会	給付	25,000円	大学・大学院に在籍し、学業・人物が優秀であり、学資支弁が困難と認められる学生
森下仁丹奨学金	給付	30,000円	志操堅実、学力優秀であり、経済的理由により学業の継続が困難な大学生・大学院生
山口県ひとつくり財団奨学金	貸与	52,000円	保護者が山口県内に住所を有しており、経済的な理由により修学が困難と認められる学生
朝鮮奨学会	貸与	25,000円	学部・大学院の正規課程に在籍している韓国人・朝鮮人学生
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気・災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている学生
交通遺児育英会	貸与	40,000円～	大学・大学院に在籍しており、保護者等が交通事故により死亡または高度後遺障害を負った者

2018年2月2日、京都薬科大学は、公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構（CPC）から、認定薬剤師認証研修機関の認証を取得しました（認証番号G24）。

2018年度から、従来のプログラムに加え、「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」「フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンスコース〉」「漢方講座」を新規開講するなど、今後より一層充実した実践的プログラムを提供し、生涯にわたり研鑽を積む薬剤師の皆様を、「京都薬科大学 研修認定薬剤師」として支援します。



認証番号G24

● 「研修認定薬剤師」とは？

京都薬科大学などの薬剤師認定制度認証機構（CPC）が認証した研修機関が実施する研修を受講し、一定期間に所定の研修単位を取得、認定申請して、研修内容を評価された薬剤師のことで、継続的な自己研鑽の証が研修認定薬剤師です。

研修認定薬剤師として、常に最先端の医療薬学知識を得ることは、ジェネラリストとしての総合的職能を向上させ、専門薬剤師の基本ともなります。

また2016年度からは「かかりつけ薬剤師」の要件の1つに定められましたので、特に保険薬局薬剤師には必須の資格となります。



研修認定薬剤師 研修手帳

2018年度生涯教育プログラムの概要は次のとおりです。

第一線の薬剤師と一緒に受講して臨床に触れてみませんか。本学の学生は「卒後教育講座」「フィジカルアセスメント講座〈入門編〉」「漢方講座〈特別公開講座〉」を無料で受講できます。受講希望者は、生涯教育センターまでメールか電話でご連絡ください。皆さんの参加をお待ちしています。

● 「卒後教育講座」申込受付中です ※本学学生（学部生・大学院生）無料

「薬剤師が知っておくべき8疾患～安全で安心な薬物療法実践に向けて～」をテーマに、実務実習で取り上げる代表的な8疾患の知識を整理し、薬物治療の実践を目指して学びます。

また、薬剤耐性（AMR）対策について臨床と基礎薬学的知見の両面から理解を深めます。

*開催日程：2018年5月20日（日）、6月17日（日）、7月1日（日）10:00～16:00

*開催場所：京都薬科大学 躬行館 3階 T31講義室

*定員：360名 *受講料：12,000円（テキスト代含む）

*認定単位：計9単位（3単位/日 1単位/1演題） 京都薬科大学認定単位G24

*申込受付期間：2018年3月1日（金）～5月6日（日）

開催日	10:00-11:30	12:30-14:00	14:15-15:45
2018年 5/20 (日)	アレルギー疾患に関わる薬剤師の役割 ～小児アレルギー疾患を中心に～ すずらん調剤薬局 管理薬剤師 京都薬科大学 特命教授 上荷 裕広 先生	高血圧診療アップデート 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生	心疾患治療の進歩と望まれる薬物治療 京都府立医科大学大学院 医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的場 聖明 先生
2018年 6/17 (日)	理想と現実から考える糖尿病薬物療法の あり方 京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科 部長 長谷川 剛二 先生	AMR対策に薬剤師として関わるために 必要なTips 京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一 先生	AMR対策に必要な耐性菌の基礎知識 京都薬科大学 学長 後藤 直正 先生
2018年 7/1 (日)	多発性骨髄腫における診療の進歩 独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 院長 島崎 千尋 先生	精神科疾患の概要と精神科医の多様な 薬剤選択 国澤こころのクリニック 院長 国澤 正寛 先生	脳梗塞急性期治療と慢性期再発予防 京都第二赤十字病院 脳神経内科 部長 永金 義成 先生

● 「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」 ※本学学生（学部生・大学院生）無料

2018年度に新規開講した講座です。

多職種連携チーム医療の中で、薬剤師はバイタルサイン情報等をもとに薬学的観点から介入を行い、安全で最適な薬物療法を提供せねばなりません。そのための必須スキルを2段階（入門：講義、アドバンスト：実技実習、実践ワーク）で習得します。

- *開催日程：2018年7月29日（日） 9:30～15:30
- *開催場所：京都薬科大学 愛学館 3階 A31講義室
- *定員：100名 *受講料：5,000円（テキスト代含む）
- *認定単位：計3単位 京都薬科大学認定単位G24
- *申込受付期間：2018年5月16日（水）～7月16日（月）

● 「フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉」 ※薬剤師限定

2018年度に、入門コースと共に新規開講した講座です。

実技実習、症例検討、実践ワークにより、これからの薬剤師に必須のアセスメント能力を身に付けます。受講対象は薬剤師限定とします。

- *開催日程：2018年10月14日（日） 9:30～16:00
- *開催場所：京都薬科大学 愛学館 3階 A33講義室
- *定員：40名（薬剤師限定） *受講料：10,000円（テキスト代含む）
- *認定単位：計3.5単位 京都薬科大学認定単位G24
- *申込受付期間：2018年7月25日（水）～9月24日（月）

● 「漢方講座〈特別公開講座〉」 ※本学学生（学部生・大学院生）無料

2018年度に「漢方講座（4回コース）」を新規開講し、漢方治療の基礎から臨床までを学ぶに先立ち、特別公開講座を開催します。

- *開催日程：2018年4月15日（日） 12:30～16:00
- *開催場所：京都薬科大学 愛学館 3階 A31講義室
- *申込：不要
- *受講料：無料（ただしG01単位希望の場合は、受付にて京都漢方研修会への受講料5,000円が必要）

〈特別講演〉 ※聴講無料

開催日	12:30-14:10	14:20-16:00
2018年 4/15 (日)	山本巖医学に学ぶ理気剤の先進医学的な使い方 ～気滞とは眼に観える中腔臓器の蠕動異常である～ 山方内科医院 院長 山方 勇次 先生	バセドウ病の漢方治療～病態と治し方～ 漢方誠芳園薬局 新井 吉秀 先生

*漢方講座（4回コース）の詳細は、KPU_{NEWS}7月号でご案内します。

開催日程：2018年9月9日（日）、10月14日（日）、11月11日（日）、12月9日（日）10:00～16:00

● 申込方法

ホームページ「開講プログラム」の各プログラム「詳細・申込」バナーよりお申込みください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

● 問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

- *E-mail: skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp
- *TEL: 075-595-4677（平日 9:00～16:00）
- *FAX: 075-595-4683



京都薬科大学
生涯教育センター
ホームページ



水中でふつつ

“鯛の黒焼き論”

— 第6話 —

学長 後藤 直正

節分もとうに越えたのに鯛であるが、まだ春だから許されるだろう。夏になったら玄関先で干からびている。本話は、京都国立博物館120周年記念“国宝展”（H29 秋季）で展示された長谷川等伯筆「楓図壁貼付（六面中四面，金地紙本彩色，桃山時代，京都・智積院所蔵）」から始まる“鯛の黒焼き論”（に行きつけばお慰み）。▲本画は、四面中央の二面に楓の大木を斜に配し、左二面にはひと枝の紅葉と群青の池、想像を促す金地空白、右二面にはふんだんなる紅葉と秋草が描かれた雄大な構図の装飾画である。都で権勢を誇る狩野永徳一派に挑み、そのマンネリ画を越えたことで自信に溢れる等伯の心象を感じ、魅入った。そこに、わが心を乱すうら若き女人の声、「秋の楓だからもともとは鮮やかだったのでしょう。修復すればいいのに」。500年を経て膠や岩彩の退色、剥落は少なからずある、等伯が描いた画はいまとは異なっているに違いない。修復云々、その通りかも。けれど、もと同じ色が。同じ筆さばきが---、と思いながら、“鯛の黒焼き論”なるもの

が蘇った。▲遡ること40年前の電子顕微鏡学会。「化学処理をした細胞は真の姿ではない。真の姿を観察するために急速超低温凍結（クライオ）法を使った」という発表。それに対し、学会の泰斗から「どんな方法を用いても真の姿に至ることはない。“黒焼きの姿”から海で泳ぐ鯛を創造（想像）するのが科学ではないのか」という反論。この技術が、第3の分子構造解析法としての「クライオ電子顕微鏡の開発」（2017年ノーベル化学賞）に至るとは私には到底想像できなかった。▲当然、クライオ電顕を使ったとしても、科学は「メールで始まった恋は最高裁で幕をとじた-Yves Saint Lauにゃん作」（天人聖一編「書き出し小説」新潮社）のようにルールでは終わらない。▲戻って、等伯画の修復。科学の世界は試行錯誤が許されるが、当時の画はすでにないいま、修復が問題なのである。プラド美術館の絵画の多くが、1992年の「修復大革命」で破壊されたそうである。「ひさかたの 光のどけき 春の日に しづごころなく 花の散るらむ 紀友則『古今集』」



NEWS

2018年度前期学費等の納入について

会計課

4月上旬、新生以外学生の保証人様あてに学費等の納付書を送付いたします。納入期限は以下のとおりですので、遅れないように学費等を納めてください。

学費等の納入期限：前期分 4月30日

- 経済的な事情でこの期日までに納付できない場合、学生相談員（3年次後期以降は分野主任）に相談し、速やかに学費延納願を事務局学生課に提出して下さい（学費延納願の用紙は学生課窓口にあります）。
- 所定の期限までに納入しない場合は、講義・実習等の受講及び各種証明書の発行が停止され、定期試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となるため、十分注意してください。

<納入手続のお願い>

金融機関窓口で納入される場合は、本学から発送しました**納付書**をご利用ください。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は、納入確認が困難となる事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意くださいようお願いいたします。

振込人は本学納付書の太枠のお振込人欄に印字された**整理番号（半角のアルファベットと数字の組み合わせ）**、**学生氏名**、**金額**を必ず正しく入力して下さい。

保証人その他のご家族等、学生ご本人以外の名義で振り込まれた場合、本学にて納入確認ができない可能性がございます。



作品名 「富士と桜」
 作者 浜田泰介
 規格 絹本彩色 M200号

浜田泰介（はまだ たいすけ）
 1932年～ 愛媛県宇和島市出身 日本画家
 1955年京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）卒業、1957年同大学院修了。同大学を出た後、抽象画にのめりこみ、機会を得て渡米し、サンフランシスコなどで活躍。帰国後は抽象画から離れ全国をスケッチしながら歩き、多くの水彩画を残す。その代表作として「日本百景」「四国八十八カ所」「西国三十三カ所」などがあり、また、京都の大覚寺、醍醐寺、東寺の障壁画も描く。その他、四国では八十八カ所中の八栗寺、屋島寺の襖絵も完成させ、「平成の襖絵師」と呼ばれるようになる。

本作品は、本学の創立120周年記念事業の一環として購入したもので、現在、愛学館1階エントランスに展示しており、いつでも鑑賞できる状態にある。

浜田泰介氏は、1984年に横浜から大津市比叡平にアトリエを移し、そのころから富士山をテーマに描き始め、また、同時に寺の襖絵を手がけている。

なお、本学が所蔵する浜田泰介氏の作品は、本作品の他に本学創立120周年における「親子三代表彰者」や「記念事業委員会委員」に授与するため購入したリトグラフ「赤富士」及び「塔と月と桜」（当初の登録名「醍醐の桜」）がある。



自治会執行部主催 クリスマス企画

自治会では、2017年度もクリスマス企画を実施しました。試験も迫り勉学に忙しい学生生活の中に、クリスマスの楽しさを入れられたらと考え、クリスマスツリーを飾らせていただきました。授業期間との兼ね合いでクリスマス前には企画を終えなければならなかったのですが、少しでも皆さまに楽しんでいただけたら嬉しく思います。今後とも、学生が明るく豊かで季節感のある学校生活が送れるような企画を考えていきたいと思ひます。実施にあたり協力していただいた学生課、教育後援会の皆さま、本当にありがとうございました。





人とのつながり

たるき たかし
多留木 崇志



2012年 学部卒業
(薬理学分野)

地方独立行政法人
京都市立病院機構
京都市立病院 薬剤科



トボール部では年2回のOB会と4年に一度の大OB会があり、卒業生と在学生とが関わる機会があります。そこでは、社会で働いている卒業生と話ができます。積極的に目上の人と話すことで、新たな気づきがうまれると思います。病院薬剤師の魅力を教えてくれたのも、実はバスケットボール部の先輩でした。

現在、私は京都市立病院で病院薬剤師として7年目になろうとしています。救急領域で日々患者と向き合いながら、頑張っています。入院時には話せないほどの重症の方が、退院時には「ありがとう」と言って退院されるのをみると感慨深いものがあります。現在、力を入れて取り組んでいるのが、ポリファーマシーです。ポリファーマシーは薬が多いことにより、薬物有害事象、薬物相互作用のリスクを高めるだけではなく、アドヒアランスの低下や医療費の増大につながり問題となっています。「患者にとっての最適な薬剤は？」と考え、医師と相談することを続けることで、医師からも「この人の薬どうしようか？」と声をかけてくれるようになりました。今後も積極的に患者の薬の適正化にむけて頑張っていきたいと思います。

薬学部が6年制となり、12年が経過しようとしております。私は6年制薬学部の1期生として京都薬科大学に入学しました。愛媛県出身の私がこの大学に入学した理由は、同じ京都薬科大学出身である私の従姉から話を聞き、地元の新設薬学部よりも伝統があり、企業、薬局、病院への就職などいろいろな可能性のある京都薬科大学を選びました。在学中は、バスケットボール部に所属し、仲間と一緒に日々練習に励んでいました。また、学園祭の実行委員会や研究室などで多くのことを経験できた学生時代であったと思います。

1年次生の時、当時バスケットボール部のキャプテンが「卒業生とご飯食べるが一緒に行くか？」と言われ、卒業生から話を聞く機会がありました。どういう働きがいがあるのか、数年後には、自分がどうなりたいかを考えたときでした。また、バスケット

京都薬科大学に入学し、京都市立病院で働いている現在でも、大学時代のバスケットボール部の仲間、先輩は大切な存在です。在学中のみなさんには、多くの人と出会い、そして出会った人とのつながりを大切にしてほしいです。

Library News

図書館

開館日程

2018年4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2018年5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2018年6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備

2018年度入学試験結果と総括

Report

入試課

2018年度の学部入学試験が終了しました。志願者数および合格者数は表の通りです。

2018年度入学試験の志願者数は前年比46名(1.8%)減少し、2,475名となりました。

大手予備校の調査によると今年度は「文高理低」が鮮明になり、医療系の不人気も目立ち、私立薬系大学の志願者数は前年比93%と低調でした。

入試広報活動は、オープンキャンパス、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問、学生の母校訪問等の活動により積極的に志願者確保に努めました。中でも、在学生による母校訪問に力を入れ、50名ほどの学生による母校訪問を実施しました。また、オープンキャンパスは昨年度に引き続き多くの学生広報スタッフの協力を得て、非常に活気あるものとすることができました。今後も学生広報スタッフの募集を継続しますので、興味のある在学

生の皆さんは是非4月に開催される説明会に参加してください。

2019年度入学試験においても広報活動を通じて本学が育成する「ファーマシスト・サイエンティスト」の魅力を伝え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	52名	52名
一般公募制推薦	80名	291名	80名
一般入学試験A方式	45名	884名	372名
一般入学試験B方式	180名	1,221名	491名
一般入学試験C方式	5名	27名	11名

(合格者数は3月14日現在)

2018年度大学院冬季募集及び二次募集の入学選考結果

Report

入試課

2018年度薬学専攻博士課程(冬季募集)及び薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の入学選考を1月30日(火)に実施し、同日に合格発表を行いました。また、2018年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の入学選考を2月15日(木)に実施し、2月21日(水)に合格発表を行いました。

入学選考の結果は表のとおりです。

■ 2018年度薬学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2018年度合計 (夏季募集含む)
志願者数	1名	9名
受験者数	1名	9名
合格者数	1名	9名

■ 2018年度薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2018年度合計 (夏季募集含む)
志願者数	1名	1名
受験者数	1名	1名
合格者数	1名	1名

■ 2018年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の合格者数等

	一般	2018年度合計 (一次募集含む)
志願者数	1名	1名
受験者数	1名	1名
合格者数	1名	1名

■ 平成29年度日本医療薬学会 Postdoctoral Awardを受賞

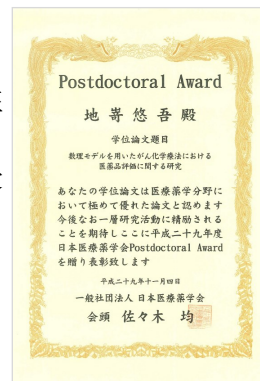
2017年6月19日、臨床薬学教育研究センターの地寄 悠吾助教が「平成29年度日本医療薬学会 Postdoctoral Award」を受賞しました。

2017年11月3～5日に開催された第27回日本医療薬学会年会にて、授賞式ならびに受賞講演が行われました。

ちさき ゆうご

受賞者：臨床薬学教育研究センター 助教 地寄 悠吾

演題：数理モデルを用いたがん化学療法における医薬品評価に関する研究



■ 平成29年度日本ペプチド学会「学会賞」を受賞

薬品化学分野の赤路 健一教授が『平成29年度日本ペプチド学会「学会賞」』を受賞しました。

11月20日～22日に大阪府立大学で開催された第54回ペプチド討論会において、授賞式ならびに受賞講演が開催されました。

受賞者：薬品化学分野 教授 赤路 健一

演題：ペプチド化学に基づく蛋白質機能調節分子の創製

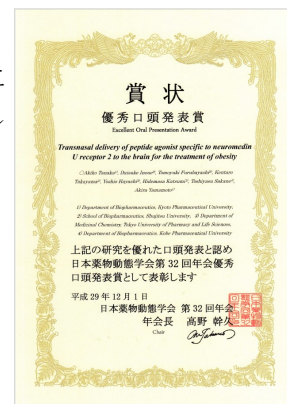
■ 日本薬物動態学会第32回年会において優秀口頭発表賞を受賞

2017年11月29日～12月1日に東京で開催された「日本薬物動態学会第32回年会」において、薬剤学分野博士後期課程3年次生の田中晶子さんが優秀口頭発表賞を受賞しました。

受賞者：薬剤学分野 博士後期課程3年次生 田中 晶子

演題：Transnasal delivery of peptide agonist specific to neuromedin U receptor 2 to the brain for the treatment of obesity

演者：Akiko Tanaka, Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, Kentaro Takayama, Yoshio Hayashi, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto



■ 平成29年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞

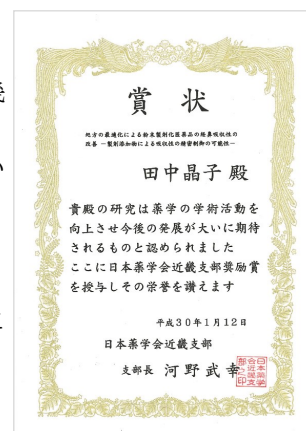
薬剤学分野 博士後期課程3年次生の田中晶子さんが「平成29年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞しました。

2018年1月12日からすま京都ホテルで開催された日本薬学会近畿支部委員会において表彰式が行われました。

受賞者：薬剤学分野 博士後期課程3年次生 田中 晶子

演題：処方最適化による粉末製剤化医薬品の経鼻吸収性の改善 — 製剤添加物による吸収性の精密制御の可能性 —

演者：田中晶子、古林呂之、井上大輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌



■ 読売新聞社主催「大学生と考える、難病支援のカタチ」座談会に本学学生が参加しました

読売新聞社が主催する、RDD（世界希少・難治性疾患の日）特別企画「大学生と考える、難病支援のカタチ」の一環で行われた、神戸大学医学部附属病院（兵庫県神戸市）での座談会に本学の学生が出席し、その様子が読売新聞（大阪本社版）に掲載されました（2/24朝刊）。

座談会の様子等、詳しくは以下のURLからご覧いただけます。

■ 「あすモア」ホームページ

<http://www.yomiuri-osaka.com/asumore/>



私の薦める、私の一冊  Column.

物理学分野 教授 有本 收
 鷲田清一・山極寿一 著 / 都市と野生の思考
 インターナショナル新書（集英社インターナショナル、2017）

「哲学者とゴリラの破天荒対談」との副題が付された対談集です。著者の一人、鷲田氏は哲学者。朝日新聞のコラム「折々のことば」でご存知の方も多いでしょう。「迷惑かけて ありがとう（たこ八郎）」を採り上げるなどは実に柔軟。臨床哲学という新たな分野を開拓中です。一方の山極氏は人類学・霊長類学者。学生時代に「京都の飲み屋で鍛えられた」後、「サルの糞を二万個近く洗い」、「一日中ゴリラの群れの中で暮らし、彼らの暮らしの作法と感性を会得して」きた人物です。Wild and Wiseであれ（野性的で賢くあれ）と若者を激励します。

前書きで鷲田氏は、「霊長類学と哲学、ともに国境とか文理の壁なんぞに怯むような学問ではない。なんのとらわれもないおしゃべりができる」と言います。例えばリーダー論について話が及んだとき、松下幸之助の語ったリーダーの3条件「愛嬌」「運が強そうなこと」「後ろ姿」を鷲田氏が紹介すると、「なんと！それはゴリラそのもの」と応じる山極氏。因みに、ゴリラのリーダーには、他者を惹きつける力と他者を許容する力の両方が必要らしい。なるほど。

本書では、家族の進化や、アートと言葉、自由の根源、ファッションの意味、教養の本質、AI時代の身体性など、9つのテーマを扱います。「cosmeticとは宇宙との対話である」という話も面白いし、「動物にとって食は隠すもので、性は公に見せるもの。

それを人は逆転させ、そのとき最初のフィクションが生まれた。人間が共同生活を営むにはフィクションが必要。それを維持するための装置として家がつくられた。」などは人類学者ならではの見識でしょう。「大切なのは命の世話を一緒にやること」という言葉も心に響きます。

本書には、「人間は、類人猿との共通祖先から分かれて700万年、大切に育ててきたものがある。例えば食物を分配したり、寝場所をともにすること。そこに幸福の原点があるはず。今こそ、野生の思考と都市の思考を合わせて、人間の来し方行く末を論じなければ」との問題意識が通底しています。

一流の哲学者と一流の人類学者が互いに刺激し合いながら紡ぎ出す言葉は傾聴に値します。新しい発見と納得、そして疑問も出てくるはず。一度で咀嚼しきれないかも知れませんが、将来の自分と将来の社会を見据えて、何度も読み直し、考えを巡らすことをお勧めします。



※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

■ 青年期について

新しい年度がスタートし、皆さん忙しい日々を送っておられるのではないのでしょうか。

新入生の皆さんは新しい環境に期待と戸惑いを感じているかもしれません。また、在学生の皆さんはやるべきことの量が増えたり質が変わったりして忙しくされているかもしれないですね。日々の忙しさに追われる中で様々な悩みや心配事が表面化してくることもあると思います。そんなときに、こんなことで悩むなんて情けない、自分の能力や頑張りが足りないからだ、一方的に自分を恥じたり責めたり、悩むことを否定したりしてはいないでしょうか。

多くの大学生・大学院生の方々が迎えている青年期とはそもそも悩み多き時期にあたります。悩みながら成長してゆくのがこの時期の特徴です。今皆さんがどのような時期を迎えているのかを少しでも知っていただくために今回は青年期を話題として取り上げてみたいと思います。

青年期と一口に言ってもその定義については諸説ありますが、一般に心理学的には試行錯誤を繰り返しながら「自分はどのような人間なのか」「これからどのように生きてゆくのか」といったアイデンティティを形成することが課題となる時期と考えられています。この時期を迎えると、人は自分の意思によって行動を選択し、これからどうするのかどうしたいのかについてより实际的に考えるようになります。青年期は精神的な意味でも社会的な意味でも自立がテーマのひとつであり、自立に向けて不安や動揺、苛立ち、焦燥といった様々な感情の渦が生じやすいことから、疾風怒濤の時期とも表現されます。まさに大学生という時期は、自分を取り巻く環境と自分自身の内面の双方において様々な変化が起きやすい時期であり、新たな変化や課題に直面して思い悩みやすい時期でもあるのです。

身近な例を挙げれば、高校までとは異なる大教室での講義形式や明確な定型のない学びのスタイルへの変化に慣れることが難しかったり、演習や研究室といった少人数制の濃密な人間関係に戸惑いや疲労感を感じたり、や

るべきことの膨大さやこれまでの自分の勉強法などのやり方が通用しない状況を経験し、これからの大学生活を続けてゆく自信が揺らいでしまったりすることがあるかもしれません。これまでそつなく物事をこなせてきたのに、大学で思いがけず躓きを感じて途方にくれてしまうこともあるかもしれません。そんな中でどうしていいのかわからず身動きを取れなくなるときもあると思います。そんなとき、自分以外の周囲の人間はうまくやっているように見えたり、自分より優秀に見えたりして、自分は駄目だといった自己否定的な想いを募らせてしまうことが少なからずあるようです。けれども、そこで単純に自分に大きなバツをつけてしまわないでください。

大学生であるこの時期に悩みや壁に直面することは、現実と向き合っている証拠であり、今、ここから成長してゆく上での大切なプロセスを歩んでいるという証拠でもあります。成長のペースは人それぞれ異なるものですから、もし前進できている気がせずに思い悩んだときには安易に人と比べるのではなく、今の自分にとって大切な課題は何なのか、どうやってその課題に取り組んでゆくのかを落ち着いて考えてみるのが、成長や解決に向けたプロセスの推進力になる筈です。

とはいえ、考えてみてもなかなか答えや方策が見つからず、混乱したり整理のつかない葛藤を抱えたりすることも多々あるでしょう。また、考えを実行に移す段階でうまくいかないことも往々にしてあり得ることです。整理がつかずに窮してしまったときや考えや思いがどうしても行動に繋がらないときには、態勢を立て直しを図るために立ち止まってみることも、そして信頼できる人、自分の話に真摯に耳を傾けてくれる人に話してみるのも一法です。話すことで整理がついたり、気づいていなかった物事に気づいたりして、問題や課題に取り組む糸口が見つかるかもしれません。家族や友人、先生でも皆さんが話してみようと思える方に相談してみても如何でしょうか。また、学生相談室も相談先のひとつとして気軽に活用してくださいね。

(臨床心理士 建部 有里 / 電話 : 075 - 595 - 4672)



合唱部 (ユーベルコール)

私たち『京都薬科大学混声合唱団ユーベルコール』は、月に4、5回、17:00～20:00に奏楽館で活動しています。普段は卒業式、入学式での演奏を目標に学歌の練習をしたり、部員が持参した合唱曲に取り組んでいます。

(2017年度の活動)

- 6月 第54回京都合唱祭(@ロームシアター京都)参加
天空の城ラピュタより「君をのせて」、
「Gloria」(モーツァルト作曲)をOB・OGを含めた40名で歌唱
- 11月 京薬祭に模擬店「ゆーべるのおやつ」出店
- 12月 部内でクリスマス会 実施

(今後の活動予定)

- 4月 入学式で学歌歌唱
- 5月 第55回京都合唱祭 参加

外部の先生をお招きして指導していただくこともあります。賑やかに楽しく練習していますので、私たちの歌声をぜひ聴きに來てください。

柔道部

2017年度、柔道部は火曜と土曜の週2日間に2時間ずつの稽古を行っていました。上半期は部員数が少ないものの、歴史ある京都十二大学親善柔道大会を本校で開催すべく主幹校として奔走しました。同年の11月に大会は無事終了し、同日には各校出席者全員参加しての合同稽古なども行いました。12月には京都学生柔道段別体重別選手権にて1名が初段に昇段し、年内に2名が初段、式段へ昇段しました。今後の活動目標は、団体戦を見据えての新入部員獲得と各部員の技術向上であり、その結果として何れかの大会で好成績を収める事と考えています。

漢方医学研究部

2017年度活動内容

- 5月 遠足
 - 8月 夏合宿
 - 10月 薬膳料理会
 - 11月 学園祭(ポスター発表とプロジェクター発表)
- 年間を通してヤマノイモの栽培

2018年度も、遠足や夏合宿を行う予定をしています。また、部員数も増えてきたので、学園祭では新たに模擬店を出店しようと考えています。

ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

- 男子団体 3位
- 女子団体 3位
- 個人戦 雨天のため中止

今後の予定

- 4月 関西医歯薬ソフトテニス大会
- 5月 四薬戦
- 8月 関西薬学生ソフトテニス大会
- 11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。私達はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスでオーケストラを組んで演奏しています。

ほぼ全員が大学から楽器を手にした初心者ですが、先輩や外部の先生の指導を受けながら日々切磋琢磨しています。

現在は4月30日に開催される全日本学生マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会に向けて練習しています。また、今年の10月には第90回定期演奏会を開催予定です。

学年を超えて仲の良いマンドリン部ですが、より一丸となって演奏会を盛り上げていきたいと思えます。マンドリンを知っている人も知らない人も楽しめる演奏会ですので、ぜひ聞きにいらしてください！！

陸上競技部

- 第18回 全日本薬学生対抗陸上競技大会
- 第72回 関西薬学生対校陸上競技大会
- 第25回 関西医歯薬陸上競技大会
- 第75回 全日本医歯薬獣陸上競技大会

陸上競技部は2018年度に、上記の大会への参加を予定しております。日々の練習の成果を存分に発揮し、良い結果を残せるよう努力していきたいと思えます。

また、2月に行われました京都マラソン2018では競技役員を務めさせて頂きました。地域の方々との交流ができ、貴重な経験をさせて頂きました。今後も様々なイベントや大会に積極的に参加させて頂き、より深く陸上競技に関わっていきたくと考えております。

人事

昇任

分析薬科学系代謝分析学分野 助教 内藤 行喜
(2018. 1. 1付)
(任期：2018. 1. 1～2022. 12. 31)

事務局企画・広報課 主事 北田 彩
事務局入試課 主査 中野 美香
事務局学生課 主事 清水 芳美
事務局学生課 主事 外村 友彦
事務局進路支援課 主査 谷垣 朱美
事務局国際交流推進室 主事 佐々木雄太
(以上 2018. 1. 1付)

再任用

分析薬科学系薬品分析学分野 准教授 武上 茂彦
(任期：2018. 1. 1～2022. 12. 31)

採用

(契約事務職員)
生涯教育センター
契約事務職員(事務員) 杉本 明子
(契約期間：2018. 2. 1～2019. 1. 31)

退職

病態薬科学系薬理学分野 助教 鬼頭 宏彰
(2017. 12. 31付)

(任期満了)

(契約事務職員)

事務局進路支援課
契約事務職員(事務員) 永島真由実
(2017. 12. 31付)

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター
契約事務職員(事務員) 山中 則子
(2018. 2. 28付)

定年退職

事務局庶務課 課長 山下 豊彦
事務局施設課 主幹 佐々木善文
事務局施設課 主事 立藤 政信
(以上 2018. 3. 31付)

NEWS 京薬会だより

＜駅伝大会とぜんざい会＞

京都薬科大学の冬の行事と言えば、「京都薬科大学駅伝大会」、コースは交通事情等で変更はありますが学生時代、クラブ、教室や有志のチームで走った経験をお持ちの卒業生の皆さんも多いのではないのでしょうか。

今年も12月2日(土)、晴天のもと、27チームが参加して開催されました。早いチームは約1時間でゴールに戻り、全チーム無事ゴールしました。今年もコスプレ賞が設けられ、いろいろと凝った衣装で参加している学生もいました。

今年の総合優勝はサッカー部、以下、2位にquartet(カルテット)、そして3位に「どーたいいち」が入りました。また、京薬会賞も選ばれました。

駅伝大会終了後には京薬会が提供するぜんざいが、選手や応援団の皆さんにふるまわれ、温まっている様子が見られました。

大学周辺は交通量も多く、また、疏水縁は散歩される方や観光客も多く、主催されている陸上競技部の皆さんもご苦労が多いことと思いますが、長年の伝統を途切れさせないために一生懸命頑張っています。京薬会としても陸上競技部の皆さんとこの伝統行事を守っていきたくて考えています。

陸上競技部の皆さん、そして参加された皆さんお疲れ様でした。

＜2018年度 京薬会代議員総会の開催予定＞

2018年度京薬会代議員総会は5月26日(土)に開催します。当日は午前中に支部長会、午後で代議員総会を予定しています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席ください。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度のホームカミングデーは第9回となりますが、例年通り京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせ、11月4日に開催します。当日は講演会ならびに歓迎パーティーを予定しています。参加者は回を追うごとに増加し、盛大になっていますが、本年は更に充実したホームカミングデーとしたいと考え、企画を練っていますので、一度新しく生まれ変わった母校を訪問し、恩師や卒業生や在学生と交流してみませんか。

昨年は愛知支部総会、昭和45年卒同窓会もこの会にあわせて開催、そのほかにも同期の仲間と誘い合わせて参加といった光景も増えてきており、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。

参加は無料です。さらに、学生との交流に使用できる1000円分の模擬店チケットも差し上げますので、お誘いあわせのうえ来学ください。

詳しい日程、内容についてはホームページならびに「京薬会誌」8月号でお知らせします。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2017年12月～2018年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

向江 初子(昭31) 加納 亜子(昭40) 高美 時郎(昭56) 関 典生(平01)
 太田 俊作(昭40) 和高 史江(昭52) 高美 美鶴(昭56) 京薬会東京支部有志

＜ 京薬四三会卒業50周年記念募金（昭和43年卒業生）（五十音順）＞

浅田 拓司 川田 俊展 中井 徹 松梨キヨコ 山本 康義
 伊槻 雅子 北尾 和彦 中村 峯子 水口 葉子 吉田 高子
 内田千恵子 蔵野 弘子 西野 武志 宮田 恒子 米元 栄一
 大原 輝光 竹中紀久子 平塚 正美 三好 英司 渡辺 温
 岡田 春彦 土居 靖典 藤津 勝子 三輪 章代
 岡田 俊子 徳田 盾二 松田 三郎 村岡 孝子
 金田 吉男 富永 勲秀 松梨 輝樹 安田 和彦

＜ 京薬六三会卒業30周年記念募金（昭和63年卒業生）（五十音順）＞

東 富雄 近藤 秀紀 鞆津 仁美 橋本 正子
 遠藤 順久 白波瀬正樹 仲山 久子 向江 康
 木村 妙美 相馬 美保 奈邊 健

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

北出 達也(教授) 高野 江里(課長) 富永 重夫(職員) 矢野 義孝(教授)
 後藤 直正(学長) 谷村 和治(理事) 森田 和子(理事)

(2018年2月28日現在)



KPU NEWS No. 193

2018年4月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691 (企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。